詞部

安至十

あハ雪
あとの柳
あづさ弓
あつまの雲
あのゞけ

一丁

あられ
あぢむら
ありとうふ
ありうら
ありうさぎ
あとゝはとり
あうはしうふ
あうねさも
あゞむ
あづまの琴
あゞけまや
あのゝ雪

あゝね
あぢさゐの花
有明の月

三丁

あぢ酒のこと
あるとの雪
あるとにもの
あるとのまゆ
あと馬
あうゝさ海
あうつさやと
あゞゝん
あうれあらふ
あるうね
あるゝ板

あゝさゝ
あぢ酒のこと
あるとの雪
あるとにもの
あるとのまゆ
あと馬
あうゝさ海
あうつさやと
あゞゝん
あうれあらふ
あるうね
あるゝ板

三丁

あゞどちざう
あゞけさら
あかさうと
あのゝ雪

あ〜ゝ
あ〜ゝ海の
あ〜ふこの神
あ〜ふ
あ〜ふ
あ〜ふ

さるぢ
置うぐ〳〵
さねく〳〵
さとあぐろ海
さうーき
さ波
さつきのゐ
さ〳〵みさろ
さ〳〵ねぐふ
さくろ
さくさあれど
さ〳〵水
さ〳〵めぐし
さぐれも水

十一

さはひめ
さち
さめく〳〵
さとふ
さぐあさ
さひちん
さつきのうこ
さ〳〵とてぐりさひ〳〵ろ
さ〳〵ぬまれ
さくろ〳〵あさ
さくさぐろも
さ〳〵波
さ〳〵ぐふ
さぐやう

十二

置なし
さうとげかさ
さぬまて

十三

とばれど
さめく
さうたさけひ
柳葉なけし浪
さうたく
さうたとろ
さあ月
さ〳〵ふ
さ〳〵バ
さ〳〵ぐふ
さ〳〵ぐり
さく〳〵ご
さえの祢
さぐ波
さ〳〵竹
さ〳〵ぐれ波

さ〳〵枕
さ〳〵ぐこ
さ〳〵ぬ
雪のこゆ
雪のうれ波
ゆぐこち
きつよとあぐ
きのゆうぐの
きくのさきと人
ささこと人
ゆとびう
ゆさうなる
とこのこうき
ありろの
さむけの祢
ゆふつけも

さ〳〵柳
さもあ〳〵ばれ
さちう〳〵
さつとこち人
きねぐ
わのかきれ
きなうづこ
きのゆうぐ
きくのさきくろ
えちとせ
ゆりのこ
ゆさの〳〵
ゆ〳〵むのと
ゆけよ

さ〳〵ぐ〳〵
さびに
柳の葉葉
雪のまぐれ
さとひる
小の友波
きやどう

十四

きの宮ぐ
えちきせる
さもとく波人
ゆぐけのこそ
ゆくこと
ゆよあ宮
ゆ川原う

さ〳〵もぐさ
さと竹

十三

柳よもひる
雪のうこ
さよ衣
きそのあさ衣
さしぐて
きくの戸
えちきせバ
ゆ〳〵ろ
ゆぐろ
ゆくて
ゆよあ宮の

十五

ゆ〳〵しく

夕月夜
夕ざれハ
夕ぬざくゝ
ゆきげ
雪の山人
雪とめぐるゝ
ゆきふる
ゆきのうちとけ
月夜
めづる
めざし
ゝくやを
こどりの神
こちとせな
なりそよ桃

十六

夕づくひ
夕ゝろさ
夕こゝろの雪
雪の山水
雪ぬれの声
雪とけ
雪とあつまる
り合の
雪のぐち
ゆきうの
ゆきやの
ゆとゝ

十七

夕づくひ
夕なぐさ
雪げ
雪のこゝろ
かく雪
雪ぐれの
ゆきうの
雪やの
ゆとゝ
めうゝうぐひ
めざまし
めざまし
こいりの
三月の
三月の
みのゝ
ゆのゝ
ゆのゝ

十八

ゝふかうつき
ゝゝのゝぐひ
ゝゝのゝ
ゝゝのゝ
ゝゝのゝ

十九

ゝゝのゝ
ゝゝのゝ
ゝゝのゝ

ゝや人
ゝやのつと
ゝてぐゝ
ゝさは
ゝものあひ
ゝだゝる
ゝやどむ
ゝのゝゝらひのむ
ゝぐゝのいゝ
ゝとり
ゝゝもゝる
ゝぐゝ
ゝひもとゝる
ゝゝ祭

ゝのゝぐゝり　ゝやゝゝり　ゝゝぐゝゝゝ

ちもいせ
ひろまへ
人ぐふちかる
人やまのろ
人ぐ〳〵
人の日

一夜松
ひぢぐさぬ
ひとむし
ひぐらし常

ひつち田
ひおのなぐら
ひ〳〵のぐ〳〵
日のれぐ〳〵

[卅九]

あぐのうれ
人のさぐ〳〵
人めりぐ
人やまのね
人ぐのあ

人ど

一夜酒
ひちて
ひとぐ〳〵
ひぐ〳〵ふる

ひつぐのあ
ひおのあ〳〵
ひひろ
ひちをく弱

[卅八]

あぐでのぐ〳〵ひ
人のぐ〳〵ふ
人めりぐ
人やまのね
人ぐのあ

人ぐ

一夜づま
一茶の秋
ひぐあの祇
ひぐ〳〵ふく
ひぐ〳〵ち

ひつぐのぐ〳〵
ひおのぐ〳〵れ
ひのぐ〳〵

[卅七]

あいなれ
人ぐ〳〵ふ
人めりぐ
人ぐ〳〵ね
人ぐ〳〵ぬ

人の秋
一夜めぐりの祇
ひぐ〳〵ぐち
ひと
ひぐげのぐ〳〵
ひぐ〳〵ぐ

ひおのぐれ
ひなぐばし
日のぐ〳〵く
ひぐばし

[卅六]

ひぐのくづら
ひぐ〳〵さも
ひぐ〳〵ぐさ
ひぐ祇
ひぐ〳〵の高
ひ〳〵の人
ひ〳〵つを
ひぐ〳〵ぐちり
ひぐあ〳〵の榜
ひぐづぐさの弱
ひぐ〳〵ぬ
ひ〳〵
ひぐ〳〵づ
おぐ〳〵のとべと

ひぐさの
ひもぐ〳〵
ひぐ〳〵人
ひぐ〳〵ぬ
ひぐ〳〵ぬ
ひぐ〳〵ぬ

あハ雪　あつことしくしく消るし。須方雲の雪をといふ。あの雪ふハ須ぞとあつくぬくし須し

あられ　三式あり。あのあられなるゝ又あつこれといふ。

又あられむあられいりけよなしといふハ愛しあられむし

ひとしいつれよも用されと十よ七八ハ物のあられなるゝし

あられ　三式あり。次のこのてこそ

た今ちらハやあられ緋のいろれよもれよりふ（すこうろふ）ろ

けあつとハネ（サ）ハ堪ん。えんうんせねんし

月こ河よ凡のりけこうろ。ふ（ハ）ろ（ハ）ろ（ハ）ろ

ふるとしのこと

あと川柳

宣跡祢（アトタルル）とあるいはれて猛座（チンザ）やまとし
きぬのゆき音跡（アト）川の柳也

あぐらもち　あぐ
のむ〳〵そらとも流りあぐら眺しおほくあぐらの柳
あぐらさみのうちうちのむ　ちうちうといあらさみのむびの
ぐらづくあるも　味酒三倫とうけ
ぐらづくあるも　あぐらざけのこと
ハつぐらるも　あぐらされく　古語拾遺五穀とうりこれ
ハせんうるなうきんうし日か記無ゝとうりこれいろな
きむきうるんし又秘伝　無味氣とうりこれい食物
なるのあぐらなるきといふよりあぐれさいあぐら
なるきの畧訓（サヤククン）也とうきされあぐらなるきといふ
ハ和の耳心なるびあらなるきやうのんは用ゆるる
あるるうるわけは　けはい徐の字まうるうるとあ
るるうるけの字をうて流へし

ありの月　紙因況十五日より塩の月とうふ　綺語抄
有明ハ大方ハ十四五日ゝわたりぬるを秋のあくるを
ハ有明の月といふべられどくらしくいへば廿日の塩と
云ふ云やと云云　豊孝法師桂明抄ハ曉うりて待い
づるを月ゝとの月うて卜又廿日ゝ月の月ともおなは
及ゝハ有明ハやはうきうう　光孝法師ハ曉うりて待い
○塩方曉ゝとうふ部ハ有明の月ハ塩方世の
ありとれ〳〵　ありうきうるれきはうるうて徐とへし
ゝうれきはうるうて徐とへし　ありう　有塩とうりう
世中ハ有て年月とうふ　ありう　有所とうりう
ありとどころ　海の塩名又徐中の
名ゝ　ありうもれ　有ともなるうし
ありうもあるび　りとあるうやうもあるびとうハるる
ありる也　ありうさびうふ　あるとふうさびうねし

あつとさあつびい初ねとも　いふ〜〜〜〜　初ねともと
ようりいふ〜つまあつとし　やらんあつねやらん初のけど
もも也　あつとのまくふく
後校ととくあつとのやまあく　警初のと此我よきうせよ
あつふもあつれ　あつふもあつれねし　あとふう〜あ〜
青丹吉とうろうまふの　あつとの物初し　まふやうあとさ
あうさ後の具の土いつう　うまようりていつとこ　ゑ秘説
あつと　あとふうて　あとふうて八幣帛（ヘイハク）といふあとさ
抵うてきうとうと青敵（ニキテ）といひ白と白幣（ニキテ）といふ
あとる　正月七日白馬の節会（セチエ）といふ　あうはし　喰
の明星といふ　あうはし　弥永のうとひりの
ひうとし　あぐりうる也　上古といふ　あ〜さ後
白地とうろうりそあなうとうんし　あうめもせあ　ふそ
ちもせどとうんし　あうねさと　目のまく初しあ

うねさと日とづけうう　あぐうる　賜石隙目（アカタメシチモク）とて
正月十一日行之田舎の人とうて官と任せうとし　あぐ
とい田舎とうふ　あうはきやく　月まやく入てあうさ
やさなうとうふ十二三日比まて　あうさやさし
あう井の水　伊まなるあうの水とうひ井し　あぐひ　ひい
あさまうあなれも　あぐ〜　あぐなる祭し
あぐ〜ん　人のんのあぐみうふ　あ〜よ
影祭　恪祭なとうろう祭　祭のおしさし　後方あ〜よ
い祭のおしさんなれど也とおし　ひひぐさあれい今わ
祭也ね初し　あづま祭り　和琴とうふ　あぐまのまくと
もいつう　あづさゆこ　梓（アカサ）の木うてうれうらし
あつまとあうふ　あうさひいの　あつさひいの　せま
てとあうし　丈木　秋うれい　あうはひいうれうれもある　祭あつれ
あうはしいひうしのうや　あつひる　宮　宮よあつひる宮

[illegible]

あづまや　四阿とりくろう彩と四方へお
うくろとあつまやのまやのあまりとつて
けくろまやのあまりの沼くろまくろを　あまくろと　あまくろ
くくくくし　あまうな　あまくろ　あまくろ　あまくろ　あまくろ　あまくろけ
あなくれくも清り戌亥の九し又沼辰巳の九しまとい
大和のあるぐ山の九くまわいひそあていづくふもらふしあ
なぐけとハあまくのの九とりよほとし　あまこおりて
山ま清りあまくこのちりてくし　あまくこの　あくこの
くぐくくくし　あくばあくよ　あくよ清りなくくへてあくこの逢
秋あるぐしとし　あくみる祢　あくこ祢し　あくま
くくせんくくうてあくくもくくとくくし又あくまくのく山
なくくくハ山谷せんくくとくくひくくくあくまくし
あくく人祢　明祢とあくくひくくく

あやふく　俗よわまよあやうく

のんびりんこし　又あやふとなり

[illegible]　[illegible]

あやなし　無益無益なとうろうろ紙のいろうれ

あやあるハ和のとらめのあやのうろうろ無益ハ和の文紋もなし

ふるさもなるさし　いろれよも用ゆさしくハ

古今[illegible]のよろやこハあやれ　おひろこ[illegible]ぬやハくろ

[illegible]

あやか　あやれ〜のしと略しるし　あやめもとうね　紋目

ふろうしのあやのとうれねし　あやめのまくろ　五月五日の

菖蒲とゆして花ようるし　あやめ　くらかいとうふ

あやうろう　その寄うろうてくうりうろとうふ

波士のもとひ[illegible]　古今[illegible]波士の[illegible]

うろうんとのこ人のいろうん　波士の[illegible]

ろくとうふハ[illegible]用ひる　波士の[illegible]

ろくハ[illegible]古今[illegible]浦又と根ようろ

のもとひ[illegible]　[illegible]

おろく[illegible]　波士のもとあと　波士のもとあと

波士の波ようあがりていろうぐとこの人とうふ[illegible]

ろくとうふ　あまの[illegible]　波ろ[illegible]ハ

万葉よ舟のもとうと舟ろ[illegible]　[illegible]

とうふ[illegible]　[illegible]

あまのおとうふ　天女とうふ　波士のまてうと　一説波ようふ馬力

とうふ貝の砂の中よ入てあるとその穴よ[illegible]

のこうろあがる紙まてぐ[illegible]

又浦捕等の説よハあまのまてうと文字ね

仍これのあやまりなるべしとこそ
ぬとこそ侍とこそ
とこそこそ

海士のさくかハ

さぐかハと海ゐへさぐる縄しくかとともしへ縄と決まるこ
く也海士のかりてきさも後り

海士のうもまとしし

られうとうふ出し後方ゑよせて紙とうわたうハいか
ふ後りいをあうう

海士のうう葦よとしのうれうう

と分とこをなうわせとハうう

海士のさへづう

海士のあらふし源氏ようびうう

あまつこ

天と花

りまこ

天の雲し又ゐ雲ふ用ひうるこ

あまつこ

天と弟しあまつこ弟花

あまつこ

天とうひわぐうん

あまつこ

あまつこ目貝

あまびこ

ひこのこ

あまびこのとこハのこ

あまつ

あまつ

もしこ

ね五月あのこ

なと後り

あのこれもこ

天の宮殿

天孫降臨の時

舟てくだらのひ

舟し

天の戸

天とうふ後方あまりはるれなどえんの行とこ

天雅表のなし

の雅と射のり

後へ

あまづり

あまつこ

あまつこ

あまつこ

あくぐれの夕　あくつきの夜の明るまへ　一夜の明るまへ　あくるけ夜
くなるとき其後が明るき　朝暮のくらはあくべ　あくるけ夜
明るけ夜　今夜の明るくるんと　あくご　逢朝　あくる
ごなるときハあひくん期のなるとき　あくごるとハ逢朝の
くるとき　あくまつ食　一夜もあくとあくハ食とくん
とくるくる　古今食やハ分　あそ夜のあくあとあくよ
しくるくるあくくるあくよ　けなくるくるくるくる逢夜
なくくるあくく　左右とくくあ　あくさくるさ
みくるくるさくるくるくる

日のほのぼのとあけゆくよ　あさづくひ　朝附
月とうとう朝月し　朝月づくし　朝月の及びあげる
ぬし　朝川とうとう　朝よ川と浪る也　浪川よハあべど
朝ぎとう　朝ぎとうづ　朝ぎとうづてきもむる也　あさせよむ　川の
浪き浦づ　朝ぎとうづ　朝ねづく　朝寝髪し　朝ごち
朝ぎとうづ　朝ぎとうづ　朝ぎとうづ　号ふゆ　朝よ朝
ぐ　朝ぎとうづ　朝ぎとうづ　あさづくし　近江の朝妻の
舟し　あさくの朝　朝ぎとうづ　朝ぎとうづ　あさくふ　人の
あさくしきし　あさくの朝　朝ぎとうづ　朝ぎとうづ　あさくきし　あさくの
さだかと浪り　朝食とうづ　朝食とうづ　食とうづ　食とうづ
あさのさ衣　麻なのさ衣ハ狭衣　とうとうで　せてさ衣
とい　あさうとうづ　長歌　無名抄よ　浦主の朝よ　とられ
とうとうとあさうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
あさでとう　麻とうとう　あさでとハ麻ハ人のよう似れた

あざやか　愛　とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
古人　其三夢のもとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
あさがれも　天子の朝乃供ら　七夕の七夕よりも
ちふ　萩ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ　ちむ
あさがれ　日なとい　あ西の凡　小倉百の凡の名し　東凡
とい　あの糸　あとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
天とやとうとう　あうとうとうとう　いさあざのことしいさあざ
のことみとうのまくびひ　あうとうとうとうとうとうとうとう
あうもよ　あの物也又　伝あよ　ひととう
魚とうとう也し　宇治川田上川よりあり　あうとう
うい木し　あうづ　芦のあの中よ　浪のとうとうとうとうとう
あうとい　あうのほうとう　ひとう　継母ちとうとうとう
実よ　よ　ちとうとうとう　とうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
あうもづれ　芦とづれ

まあるくるを天子の諒闇(リャウアン)として又そのもの喪(モ)よこりせ
ものゝとき倚庐(イロ)といふ所をこしらへて板屋とさげ
出られとゆるゝゆゝ苫のとぐれとゆゝて十二日に
りゆまれこゝ元不吉のことなれはあしのとこれと
つゝふ添せてとぐしつのくふあふいなくゝふくゝ
らと

[あしびきの]

[ぶ]ゝ吹りのなれはあしゝ引の山の松河し流なよ
万葉云こゝゆは入てあしゝ引の山のあしともゝゝ
あしゝ引の山 山の松河し流なよ そのゝゝ山いゝさ
ゝゝゝざゝゝ川泥土ゝゝ苫せたぐれゝそのあと
引てつゝひゝる流山とたゝわるゆへ苫引の山といふし又流
そゝのゝのことゝ山よ入のふ川雪凡よあゝ世なゝひて
あゝ き月来ることのゝひゝゝゝ悪日来とゝゝゝ又
流山よ入ゝふ川くゝふ流ゝゝゝくゝこあゝとゝ世ゝひ

ゝゝ足引のゝゝとゝゝふとゝゝゝ秘流あゝ

[あゝて]

文
字のゝよ木くさゝ文せあゝなゝと絵よゝゝとゝゝふ又流
ゝゝゝ奇絵の具よあゝゝと絵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又流 舟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とゝふ

さゝなりて祈 祈代よあゝ小のなりつゝあ
き祈年月の蠅のごとくあつまりゝとゝ云日本紀に有

さハ さゝバし今ハさハなゝくらふ歟し又云さうハし

さばうり さ行とりつゝいし

さゐどの 大和の佐保の風
そゝぬの歟し

さゐどの 戈物大和の佐保山に佐保と
つゝくゝる時代分明なゝと組淡海の家と佐保
名とゝ

さゐぐら 大和の佐保のゐゝとゝ佐保
おれど

さゐひめ 素とゝうさゝゐゝ祈し

星なゝく

星とばれぜ

時鳥ふゝあゝりふゝりいて〳〵星よなゝく〳〵

星うゞく〳〵 禁
星とゝ云ふれどゝうれどハ不離とゝうり

さゝり さいそひ
中のゐ所ゐ方の祈社なゝどふゝとゝふ

さゝりげなゝき さやゝふもありげゐさし
し幸の字〳〵

さゝりゐ 小寝とゝうゝりとゝゝめる
その氣もなゝきさ〳〵

さめゝく〳〵 同上
し

さめゝく〳〵 同上

さめれて ゝゝこゝめゝてし

さゝのゝさけび りゝこし
ゐ三渡ゝて生りきゝゐゐあゝてゝゝゐてさゝのさゝゝと三
ゝゝびゐばゐゝなゝゝ人も神とあゝゝとゝゝり無んゝと詩よ
も猿三声とゝゝれゝりゝれゝゝり猿よゝゝさけびと作り

さとおぐら 布とゝ校とゝさとゝふなゝゝゐゐとゝゝゐゐゐゝ
あゝゝへなゝげゝゝゝゝとゝゝゝしひゝれゝされたれバ史法のゝゝり
やゝとゝゝゝゝゝふゝもゝゝゝゝふゝゝよ
ゐゝふゝゝとゝゝひゝとゝゝゝゝゝゝ安ゝゝゝとゐゝゝゐの号武ゝ紙よ

さとゝふ ゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝて青ゝゝんゝ

さゝ紀祭ふゝゝ〳〵 境 天照大祈宮所ゝゝりゝせのひゝとゝゝ
八百万祈さゝゝゝ乃上つ校ゐハ帯とゝけ祈宮と奏ゝのひゝゝ
下つ校ゐハ帯とゝけ中つ校ゐハゐとゝけ中つ校ゐハゐゝゝみとゝけ

さゝ移く さゝ
りゝし汲りゝゝり移ていふ古ゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さうこさ　賢の字こ方えうこれんし
神なりごうりあり　さしく人のあらひさげふくさなりといふ
人のあらひのふくさけみあり　さうさとろ　卯月朔日
榊ととりて諸社はさしこ
さうと　狗人はうあり　さうさうさん　何物ぞ早来也とや
くこんこ又来まこ　さうこんし源氏うとろもの云
榊ととりてあともさう　さうさのこてもた物あでもし
さうあ月　五月とりふ　さうさのこ　青月
さうぞれ　さうぞしげふとらふんし
五月茅ひとてくこのひとちうひて五色の糸とうけ
て神はうれば諸疾とさろと　さうさのうこ　南の紙巻ものこと
百銭鏡とて五月五日りうこ
とりこうたるもあり　さうふくま　さうふしこ笠とう
さうこうし　さうこば　さうあうこさうはたし

さうこのころ　さうこうこひ榊除とうとふ
布とさうことしてづうりは布こ語布とちり　さむこうろ
狭筵とうりうせうさむこうろ又さむこさんはうこうこも
いうこしこうこしせうこさんはあうこうこもこ
も用也　さうこ谷　冥途とうふ又あうこの名ぬまあうろ
さんと禁忌ちれはこ名ぬまもいむこ　さうこあうこみ　さう
あうこうふこ○後方さうこうふあうこあうこはうこ
ましてうこあうこはいうこんは用也
さうこれ別　不去別このこれこれうこれ　さのこうる　ちうり
田とうこうこ田うりあうこさのこうこはうふこ早苗
はうあり　さうこうり　さうこうこうこ　さうこ
さうこうこ　さうこあさ　麻こ物の時分麻とまくはうこ
いふ　さうこうさい　三月さうこの時分うづる朝とうふ
さうこう子　高砂うこ我はむこ二人の男ふこうれこ女うこ

れも忘ひ〜〜れいうくうさなくて林の中よりて来よ
くひとうくて死せり二人の男うれしこのとよくてん
さ〜〜とのべ行りその方よ
書さんれいかさ〜〜よせんと我ひ〜〜林のむいちつよふろ小
妹らをよりうう梅むさうくつひやこひんいや〜〜のうよ

さくさあのとど

さくさあいたうくあとこなりし国たりこの
伝のう〜〜後乳物ようう〜〜
定恵つの伝さくさめハつ(サク)ようう(サク)とどハ力(ちから)自ら玄女といかく
う〜〜ハ我う〜〜といつう〜〜
撓八うんといひ斗と今ゆてかよりあくく〜〜さくさあのと

さごろも

狭衣とうくうりせいき衣こさんどせうえんあう
でもこぐ衣ふ浦り森のさ衣こも

さえぐ

小枝く行

ふ〜あり

さえの形

ろ〜〜(トウ)祀祈しうびのうとちりのこ
りろのうむちうの形ともう浦り

さ〜水

ちうう〜あう迷

さくぐろめ

さくぐさか

さくぐ波

餘生しさくのけどろほし

とゆいまりて求めうこひみしうとりふなうう〜〜

さぐ波

細波 樂波などうくん

ろうもうこの波くさ〜波やう

このう〜〜さ〜波やちぐふさ〜〜波やちふ

花記(ヒ)て近江の湖水のうの波まいつれふも松初よ月色へし

由法あり又池なく〜ふも浦り

さ〜ぐふ

などうくうう文桜ひそうふわう〜〜ぬとふまあり

蛛とりふさ〜ぐふのくもうもつけうう

さぐら波

もうこ〜の波し

さ〜竹

さ〜竹のたうやふを

浦り大うやくの樹何し

さ〜地の水

小石の上と流もし

さぐやう

ちいさうさ

ささうさのうつばうつば

ささうさと

ささう

稀木とりふこだ臣ぞハ三株臣株とうくうこもひ臣もひ臣し

このうこのハもいもとうくうりさ紀うさ紀三て臣ぞふうのつくりて

さ〜ぐの雪

くうハ髪のあうつくわなれハ雪ようちて雪

さし枝 刺枝とうくり枝いとぐるまれくさしのび
うわなれくし
さし柳 さしうり柳
さしもぐさ
さしあう さかぐくしいやとあ羽くし
りくさふて蓬よあ〜ぐどしとそうされと蓬の汁と用也
蓬ハりぐくふりうゆうわなれハくさひもぐくといふも
あれ〜近江のいづくさよ治り○筑方さしりくさふハり也
くといふ羽とよせて塩ぐべ〜となん
さしぐさ
くんてきのんくし其ぐくのんより也〜源氏あ巻
さしぐくふ神ゆくしけうゆあ
さもあ〜べあも
但他とうくりさうもあ〜べあれく○筑方
ねよふてうくり羽くしさくんうくあ〜ぐかくなれとさもな
くれハせんくくれ〜ぐうくハらうやくもあ〜あれといふくさ
わひよ用也〜千秋ゆ
ちひともくくくく人ハさもあ〜ハ
あれうくとやくくわくくもくれ
さびに 水のゆうくさび

くうにく
ふかれ〜
さしうう
さしぐ
さしぐ竹 竹ハくぐれるわかれハくさ一枝とく
たぐ 也 とうくり流人とい
ふ
きさりの一茶 羽の一茶一茶散
きさりの流茶
きうう立枝くり羽の一茶ちりそむる也くく
なくくあり立枝くり羽の流茶なくとい
きうふくむ
風鳳 ハウフウ
ハ初枝よなくり也
きうふくむ
もぐて竹の茶よあ〜ぐされ
くかうハ源ホし 寿のうくさ
ハ不食といとり
寿のうくさ
物ぐくくくくくとりふ 後撰 今ハとて枝くくれ〜ハ
きうくくくり人
八雲抄
なれくもくくくくとえやくく
寿分のぐくくくとゆぐれよ
きうくくの中ぐれ
寿分のうくさ
のうくくとあよくくくくくり
寿分のうくさなくく
これも信
よくくくくくくも
あうくくのくくれく人と我
きぬぐ
衣とうくくくそれ〜とあうれ
きうくくくく付とのぐきぬくく

きそとりふ　きそひろ　競馬とりふ　きそ衣　精進潔

斎の衣し　小でら　小ひろの丸し　きその糸　塞翁羽

ゑ少し　小の友なこ　茂系氏子四家あり南北京北京

武蔵し小の友なこ　ハ北中あの茂系氏とりふ南京弐の三

家ハ〳〵して小家ハ〳〵ろうさうこうろ今の茂系ハ皆北家し

きぬのあさぎぬ　伊佐の木ゑとわいづる麻ねのし

きつよそあなぞ　きつひよそはせむし　いせおろうれ弓ふ有

きなうりいづこ　泉し　めいどとりふ　きやとろ　末つもやど

うを鳥は洗り　きしこうこきこきこやらあ

んこ雪ふふうあり　きのもろこの　木ゑ名し　斉明天皇奚

宝の軍ともつこぞけあり　土佐国よりこせあふこ伝

ま鈴会の社あうろろ　社の木ときりて木ゑ名ところ

らひうろやの雲ともとて伝用んのこうふとろ人と世ん

となのせてとこされろとあん　きのふりいこう　時ろ

ろとおこのこといふ　きのこうぐこつろ　後拾遺

むう男女とあひしろふ弓よし女私ハ名なるふ

へ仍ろんとこうこあんとりひて女ハなくて松よ

ろこそこと月強て山弓又白さをまりて又人となりあと

ところこそこれハ紀伊国よりて弓人ろ

こうこうこよりて紀の雲ゑハ弓と淡なろべしこうこう

ハよ東ろしふぐろ伝とまれこうとりふ　きくのこ

体弓ゆあと　きくのさせろこ　菊と雨ゆよあて

じとわことろこくふてあてきくふきもろ

ゆなこよ　ゆろこふし　こゑうまこまし

はせろを　こゑがきもせろ　こゑうまこまし

ゑたをせ伝の字と人とうむし　こゑのおハしゆせハ　きこと人

しゆせこ　きことうこ伝土　こゑちよゆを　こゑちよゆを

ゆこしこ　お紫のこ三ふうこと　砂土のこきとりふ見とろこ

林ふを　とりひてつこの人

月ひぐ色わさんとゆうゝ色と云
しひろくゆうなろんし源氏物語ゆくとびうゆ　ゆくとびう　空の字
とゝ云　ゆうりの色　紫の色といふ紫ハ女ゆうとゝふ
なんむゝさんのゆうりといひて女の衣類のんゆもゆう
○浅方友萩甚みむゝさんのむゆハうれゆもゆう
ゆぐさけのゝゝ　神の正衣ハうのゝけさゝりし衣と云
衣とゝゝゝり　ゆづり　ゆうなうまはゝつさ
老ゝ(ウ)のゝゝさ　ゆうれゝぐうふゝと云
古今りて我と人ゝゝゝあそ大ゆのゆゝさゆゝまわゝゝれそ
ゆくゝとくゝと　もゝとくゝゝとし　ゆくて　ゆゝのゆくてし
後りりゝさし又後ゆくゝうゆゝでし　りゝのゝむゝの神
ゝ祖神ゝとてゝびりゝゝ　ゆんゝとやりゝゝゝ神しゝゝの神と
ゆもゆれゝ　ゆゝぐゝ公のゝ　ゆゝぐハのゝゝゝ公のゝとハ
今ゝし今とのゝゝし　ゆゆゝゝ　ゆゆゝゝゝ　夕のゝゝゝおりゝゝ

雲ゝし　ゆゝゝりのゝゝ　ゆゝゝりのゝゝ　神社へふゝりゆゝと
ゆれゝゝゝ　ゆゝつけゝ　ゆゝゝゝゝ　ゆゝゝゝゝ
つゝゝゝゝ　ゆゝゝゝゝ　ゆゝゝゝゝ　ゆゝ川波ゝ
くれゝよゝゝゝゝ

の水つ〻ろし　雪もよ　雪の表く又流雪　俗に表し

雪げ　雪とりよほとと　雪消とりそりき〻

ゆろし　雪けの水一のろれなと侍り　雪の玉水

彩えなとふりし雪乃消て志ぶくの玉のごくふるつ

ろ伝りふ　雪伝いてごく　白髮とと云　雪のろ山よ的名

雪山よ云養鳥とてあり此名ろ〻ろ〻を氣といと

ひ欲ハ雪を養よせあ〻れて松用ば〻〻ろとつ〻んとおく表

明ゆれハ雪とと〻れてく〻つあとも志〻ぬ雪ゆ乃の名とし

てなんそ志〻ろ伝つ〻んやと的ろ一拾文よ〻〻ろ

玉柴鈴ゆく雪のろ山よ的とりの声よ的ろく人の名さ伝

雪の山人　雪山童子とといふ　雪おれの声　松竹よよ

ありり松竹ハ柴ゆ〻雪ふ〻ろ〻ゆ〻ぬれハ雪乃

もろ〻し　雪伝ありりむ　雪よありりむ雪ゆ伝とふよ志ろ

す　雪ぐれの雪　雪ぐれの雪

雪とめぐ〻伝雪の他　迴雪（イセツ）とふ雪〻

七夕よ流り二の日乃りり会〻　りあひの橋　りあひのろせ　交と秋

とのりあひよおゆ〻ろ〻ろ〻ろ〻せて　ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻

ねゆ雪と秋とりふ　ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻ゆ〻ろ〻

つれハ郭こうを狩人こうけて山鹿とこそ〜やうて
其皮とそ〜紙ちりはめうちちをしとし〜りをとりつげ社と多
弥といふ　日本紀よりしこうり
夫木とのう多よ雲とく高やこそ〜ゆんはそけよ鹿の鳴家る
同　鹿とおもとれわさあ小宮て哀なうる多神の鹿しく〜ゆ
多のうこそ〜　しこ〜高し秘伝あり○弦方かくハ弦ゆん
ゆこそうの月　ゆこそうの月　弦月とれあてこ〜で多のうよ弦をも
とちもの弓弦月といふ半月の弓のつとこそ〜ろ歌よ
似望ハし変孝法京　日上弦月八七日八日九日山あ三夜の中
ふこうてすり月よんてんとうむ〜下弦月八廿一日二日三日
の月ま月よんてん狩の弓ニト　ゆひやこふ　早稲沢
よあつとゆひとハやこひ人とうよゆひのこうろ入とも弦り
城石あう田そ〜ろふこうゆひもやとこ弓ま苔沢ん

ゆこそ　月沿し月のくこふ沢とうのそうろふこうるんよ弦や
めうら　月のおとをのひこれくこうひもとうよ玉こうの
めうこうる　月のおとをのひこれくこうひもとうよ玉こうの
ことくこつの弓ハ月ハ月ハ月

めさし　小女とりの文箱ともいふとぞ

ああハと鹿　そ

八五月の比鹿射とて云ふ山のまつけこふほうとといふ和名抄

ま矢とりてさして鹿とすれば甚矢のひろりは男鹿

のようさて目をとめハもとれ〳〵とゝあるとわ〳〵ひ

てうつて射るそとめあらと鹿とハいふ　めひろうは

めもとうなりんこそれとおのめろうふこせてもそ

こいりの　梵平　佐竹金也　四月五日ハ

ハしてとやをこしてとやとく　こみやと　こやと

おそ　我身ハ

の仕也一説矢の根とうきの　こみなかの　いこうき八煩悩也こふこひ

古今に云ものひつこのあらきとハそれよりとせていろとをく

こうの弟　あらきれくこふいろきいつもそて

ゆきしんこ　万葉　二宮のこと嫁ひむとし　弟とをこ〳〵ふ

ゆつ〳〵我身ハなりぬ　とどりの神　六位の文とふ

とどりの林　源林自殺して盗人とふらもむと縁の

林といひ海ふもむと自殺といふとなん　ことのうくひ

天のうさうこて二神陽交合ありこ〳〵とふ

こをの後乃ふの神　今の結ふ

其女子あ〳〵八五子なこんハこをもあ

とゆうとをこ　こちとせよなりそふ桃　西王母の桃公三

ふをふ一交こなりこといつり根よハこちとせの

花こちとせ〳〵て咲花〳〵これなり根よハこちとせの

ろりつり　ろりつあそこ　ろりつ　ろの西こ飛りせ迂

りせのこひこ　ろのあ〳〵り　ぬ〳〵り泥とふ　ろの西こ飛りせ迂

ろのとうふかう〳〵とふ　ぬ〳〵り泥とふ　ろの西こ飛りせ迂

ひ〳〵ろ水の舟こてろのあ　ぬ〳〵りあ〳〵ろ　ろの西こ飛りせ迂

ろ初こ海　美仲とふひ人ふ　ぬ〳〵りあ〳〵ろ　ろの西こ飛りせ迂

とこあらてろとゆう　古事ふ　ぬ〳〵りあ〳〵ろ　ろの西こ飛りせ迂

みわた 水沼く水ちりぬる也。俗方こめんよう也て意なとふ俗り

ろうめ 海苔目とりくろり海よあるみるとりのくさ。俗方ろうんよう也て海苔のこの意のこの意のこの意ろうなとふあり

ろうぶ ちさなどの髪のようなもの

ろうめ ろうぶ

ろうぶ 近江の湖水とりん海松貝ハ俗方不ろんよう也て意よ俗り

ろうめ なぐさとりん。俗方ろうめハ俗海松ハ俗方不ろんよう也て意よ俗り

をとつめ 我身とつこて人のあつれと和とりよ俗よ

ろうぶ ろうぶ

ろうぶ ろうぶ

ろうぶ ろうぶ

行の三十二相とゝ
稲荷ゝ法り
のゝゝつばゝゝつハのゝゝゝゝつ
門井厠の三のゝゝし

三のゝゝゝめ　元日し年ゝ

三の友　琴詩酒のゝゝ

三の灯

日上　ゝゝつハゝゝつバ　さゝゝゝゝ

ゝゝつのゝゝ　ゝゝゝゝ　三体ゝて

ゝゝつのゝゝ　ゝゝゝゝ　未来の三世

ゝゝつせ川

三塗川とゝ

三の傷ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬのてぶり　ぬの俗し

ぬのつと　ぬの

ぬぶ　ぬ姿風流娘情なと

ぬぶり　ぬ姿風流なりしもいとなし

ぬぶり　ぬ姿風流なりしもいとなし

ぬぶり　ぬ姿風流なりしもいとなし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鹿跡菟とゝ

[illegible] わけとゝんし又そうとゝ云なも用也 古今[illegible]と心と[illegible]
れぬしや[illegible]ん

[illegible] さもとゝふとゝんし

[illegible] そゝぐ[illegible]ハあつとゝ

鹿の苔とゝ

[illegible]の[illegible]

[illegible]ゝ布しこれとゝ[illegible]ぞあと
[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝとあ
[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とらふ 今の肥前肥後也仍ちゝぬひのはくとゝいふし
ゑぬ火とらふんし

ちゝみの花 紫葉し **ちゝふくろ** 盜人とらふ山ゝとゝいと
白き幣帛とらふ

ちゝあて 海ゝもゝひと白袋といふ
裾抹とらひ

ちゝ〻ちのくふ 新羅國し **ちゝむら** トル訓ル
おゝよれをろゝんとちゝひろゝんとろゝとろゝ

ちゝみのこゝで **ちゝのぞゝゝ** **ちゝの**
椎のふ枝し

ちゝの実の純 喪服モと云
をゝゝちゝゝわらいでゝとゝ清方ちゝのとゝゝさゝわるい
でゝゝ和なれハ西ゝ西なゝゝふゝゝせてゝゝあり

ちゝは **ちゝの**
ちゝしちゝのよゝおゝちゝふゝ西ゝちゝゝ和ゝちゝふし

ちゝのふ家ちゝふ西ゝ
雪ちゝるし。清方ふ苦系なゝとゝゝせて清り藤のちゝの

ちゝのぞゝのりゝれちゝえ
ふゝゝせてゝる西

ちゝのぞ 和泉のちゝのぞゝのりふハ
ゝゝとの未一なひゝろぞゝて千枝ゝゝゝれゝゝゝとゝんゝゝて
ちゝのゝゝゝりりふハ千枝とゝゝゝなれゝゝり

ちゝびづま

ちゝのひてあゝ書し

ちゝの巻 新雲 **ちゝ** 衣服なゝとゝゝゝ雲
とゝゝゝ

ちゝびれ 郭公ふゝゝゝゝ五月と紙のゝゝけとゝゝひ
和月とちゝのひ祝とゝゝゝちゝのひくゝよゝゝゝんゝ

ちゝのをゝゝ
ゝゝのゝゝ吹ゝゝ

ちゝのぞ **ちゝのくゝぞ** 一説蛭とゝゝゝ又ゝぐ
さゝしとゝゝゝ

ちゝのぞりぞり 奥州ちゝのゝゝ乃郡ゝゝゝあり
其ゝの西ゝゝゝゝゝゝゝて西ゝゝぞゝのゝゝちゝゝ洲ゝゝゝれさ
ゝ紋あり其ゝゝ盛ゝて西ゝゝ又策西ゝゝて布ゝを
ゝしゝれと特衣なゝゝふゝ男ひゝゝゝ。清方ちゝのゝを
西ハ紋をゝゝゝれをゝゝれハゝゝゝとゝゝゝ線ゝハかゝく
ちゝのぞりゝゝゝとゝ清り又ちゝのちゝふゝひゝゝゝゝんとち
のゝをゝりゝゝゝてゝゝゝあゝゝゝ古今
ゝゝちゝのゝのゝちゝのゝちゝを清逢ゝゝゝ和ゝゝゝ
又ちゝのゝぞゝりゝふゝゝぞゝれきとゝゝゝ和ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ書目祝のゝゝゝ紙ゝゝゝ夜西ゝのゝゝれ清ゝゝれを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲のこと　一雲のあることを俗ひの雲と識ひのこと
ぬきふ　こと　こと　こと

り色も人のやうにあらて秋とゝろくのりうゝふく
なゝゝゝ千載集 [illegible] 秋の別よりそてく
やとあゝぬ袖そうれ [illegible]
ぬ [illegible]

人のをゝ

人のうゝ

人のうゝ

人のめうゝ

人のうゝ

人のうゝ

人の

かりいとくねれとうんこしひちての幻今ハ泳ぎべ
くどとあん

ひるあの神 日霊等 天照大神の御
るまし いく斗 幹乃紀ときてう天 宮とひるあの神と志へ

ひと 氷魚 田上川宇治川おとふ淡り名の知しあづろ
といふやどろくてとるし水はまろうして川下ろり一変ま
おほくのかるやしうてひとのぼるろひと洲ろみの
ひとかと淡り又あづろの高ふひとつろひとつむなて
いふハ氷魚と月とあるふひて云

ひとむし 蜉蝣 ニウ
鈴ふまちて夕ハ死をろれ志知。淡方 無考ろ名て
うあり

ひとさつろ ひとさつろのひろハなて淡り
茶の志ろて日新とさあるこうんこ

ひくらつく 凡のろし八雲ふひつーさろの凡し淡おふろつこの凡も
絶美況ふハ東凡の吹やまねしとと云

ひぐげのろつ ひ
くけこと云ものろつをなろしをのあろふろろ

ひるしちび ひるしちのうー海の明神の桑の月女ふひけ
ろ男のあまさあると布の号ハ其名ともとうさつそて
神おふとけハ月を神ふまを人さ男の名ろうさろハとのつ
うひるぐつると孫ざくとりてとろうしてとれハそれとて
男ろこちろうとてもろうしくなろしいひつろうり仍
志の言ふまりり又ひるちのろとろつくろろハ号に
ろこしといふ和ありり釣の字ろ又淡ろどハ神ひるそれな
いさろくとりふんとろひろうくとりふ言号つひ用
るハいさろくのんこ又ろろろ和どし 彩古今

ひるふ 糸洛の名乃ていろひるちも常ひろハろもあろんと
一而ふ一むるさなろんこ。淡方山田のひるさ
ふるなどつくろハ田ふひるとろて名とかと
ろろをしそれふーせていりふ和とろて名とかと
和とちどへど一ろちあろんこ

ひぐのろこ 大山むや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のほくろ[illegible]つくらう[illegible]報革こ[illegible]まつ[illegible]らく海[illegible]らなとよ
くさこ　ひきまる　くひこのまゆとよ　ひごと　河と云
万葉河のくとひ[illegible]とよひ[illegible]ものふほさひ[illegible]ものとのほさ
ひごつこの時代　聖人のこよ也月かうて八延喜天暦のこよ
と聖代とうめまる也　ひきり　ひごきといふ海苔よこ
それとつせわくうふひ[illegible]神とーつもと云
引変わとつまくくて云也　ひもろぎ　ひもろぎ　ひもろぎ
の面のくうんよ似るぎりの　ひとこうりこ
祝とも神離ともくくり宗祇日神まもう飯之又汲神祭
ふハくぐてひてとて拍祭まてさて飯葉と入くこく
りろぐ　おひのぐ　くくこ　かこ云のこあれの月うしらふ
くこる　りろこぐさ　蓑とよあひハ二ちなち拍ふ
ものこ　りろ祭とよ　りろん　法人こりろくの人と云
りろこ　蛙蛙むりの声なこふ洗りちくくりろもふ

りろや　矢一ふこ二かとことよ　りろ神
りろくの神こ　りろやーろ　りろくのやーろこ
りろこーの祝咲こ　りろこーの大度巌こ祝おはきはく
りろぐ　りろともふ祝とこ　りろこーの宮　詩とよ
りろこ　りろくこ古今あこりろ行ぬる時ふ歌
人の為きとも知れ　りゆもむこー　これろくと
りふむーころて我人こ和ふよこふよあり
りふこりろこむぐハ　藻はうりこふとりよむりこふこ
りろろ人　な人こ　りろ祭　末苔のりこ祭こ八休こ
りろろ　な香こりこのくこ　りろのん　むりのんこ
りろろ乃　白色とりよ白色為根かとて白八之のりとこ
りくろ乃　ケ千ケ之乃成とりよ苔こりふこ　りとこ一人
むりこ人こ　りとこ　りこ　こりこ祭ろ
りとくぐこりり　りとくぐこりり　りとくぐこりり　りとくぐこりり我さこり

とらふ八月の中秋の月の名ふりつひ雲の
うれとかりとりてさらり戦さうりも
とりふ蘇し　りとめと　赤豆
りとあるのそ俗　祈年より　うたをふ
りとあるのさ　りとあるのさ　月上
りとあるの行　月上　りらの月　ぐさ餅　りらの
乃ゆをうくこと　りらの月　十五日の月を望
月とうくわ十五月ふ月とわのそむまうて望
といふさ　りちづきのこと俗　八月十五日約速そて俗
法宗月牧うり牧の約と林中へ引ぬ　もうと反
上人宴人なとお坂へむうひいそ　うあうくう　八月十五
牧ちれ八月はよせてこむ　りらの日　十五日と
いふ　りちづか　十五月のこうらしひ　りうり舟　深
をとる舟　りりる水　時と紅漏部のちぐうとらふ

りふく　も八喪の字く喪ハうぐそひと俗くもおくハこうひのう
いなりもて外ふうう居るとぬこうれ八我さくしあ物あつき小
これ八人は衣とぬこそやれ八裳のなくふうこうもと巫の名
ふうそていふく　りふう　宮月　月とうくわ八月十五日とを
なうの月とふ八秋の中たれいく又他のりふうまもむ
月なというも秋の宮中と深中はよそていふく
りうぬいそわ　うの〻笙の音　わゆく又
地ふぐうのんうも用　りやくの実　おれのくいふくうりやや
の実ともいやくくの実九　いふいやの実九ものやくくの実九
いふいれも月し　りや　母屋こうりなる
りづつうぶか　りう八藻ふ　一来のけ
あうふ鮒く俗百ものこうあ　りうりりうれりつう
ひやうこうふ分しふうり　りづつ　お茶とうも
りうくうぶん　お茶せぬく　お茶ぐうく　お茶とうも

おぶすの関 おぶすの関ハ白河ニ有ト云

おぶすの深草 戸帳ニおぶすの深草ト云

おぶすのこゝろ おぶすのこゝろハ

百敷 禁中ト云百敷の義ト

りくさ 百枝ニ物

りくさの花 百枝ニ物ハ百枝ト百芳ハ百芳ニ

りくさのむらくさ 百草ハ百草ニ

りくさの名 百草ハ百草ニ

りらの名 百草ハ百草ニ

りらごう 古今集三名ニ三の秘ニ有ルの一ニ今ハ可

源 **りえの松** 古殺ニ伊勢内宮ニ源ハ宮ハ

いりえの板ト云ハ五百枝ニ

りえの松 りえの松ハ板ハ

りくさえづら 雪のしと源ハ

りどのてや おやまハ附鳥ハ番さ

りとハ塩ニ義ニて物ハ

て甚あ〳〵ひとりさ寸ニて甚ハ附るのこゝろ時

分ハ蛙やうのおと者のこゝろふさ〳〵ときて附る

なあ〳〵ふこれとゝ云ハ

蛙やうのおとさ〳〵ハ

りとのこゝろさ 上はさ〳〵ハ又りとのく

上はさ 上はさ〳〵ハ

せとの吹ゝけ 浦路の世〳〵の吹ゝと源りあ〳〵ちの世とのこゝろ

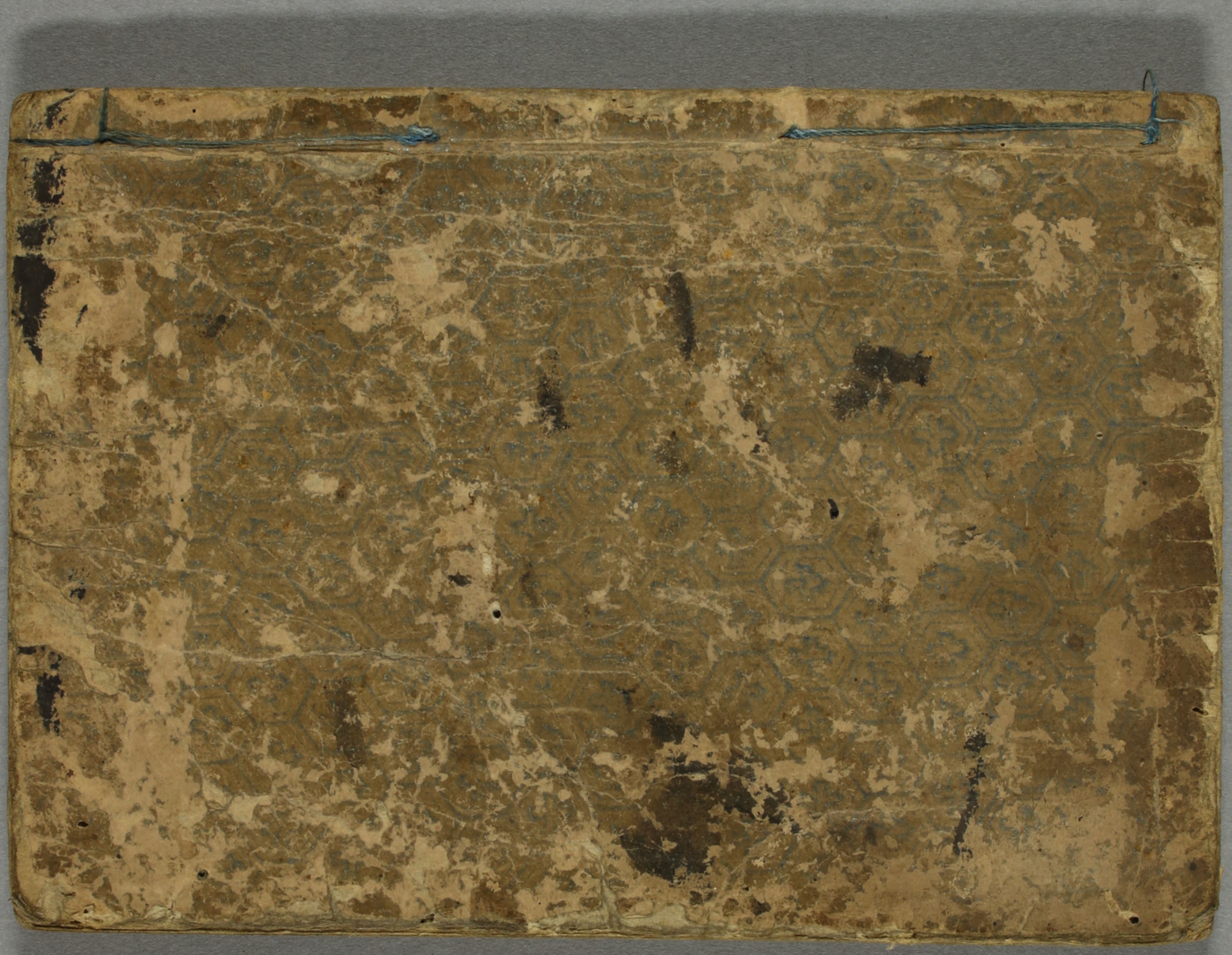
せゝなつひ 上はかこゝとこゝろ

とあとゝさ

まこしはこそ　あて　ゑ
と　知せ　ゝ　ゝ　ゝ

享保九甲辰年

卯月吉祥日

二条通丁子屋町

山田四郎兵衛